岩手町国民健康保険保健事業計画

（第２期国保データヘルス計画）

中間評価報告書

令和３年３月

岩手町国民健康保険

目　次

第１章 第２期国保データヘルス計画の基本事項・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ１

１　第２期国保データヘルス計画策定の経緯

２　第２期計画の期間・中間評価及び見直し

３　第２期計画の目的・目標

４　実施体制・関係者連携

５　中間評価の趣旨

第２章 中間評価の目的及び方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ３

１　中間評価の目的

２　中間評価の方法

第３章 保健事業の中間評価 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ４

１　全体目標の評価

２　個別保健事業の評価

第４章 総合評価と今後の方向性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P12

第１章　第２期国保データヘルス計画の基本事項

１　第２期国保データヘルス計画策定の経緯

国では、国民健康保険法に基づく保健事業の実施等に関する指針の一部を平成 26 年４月１日に改正し、保険者は健康・医療情報を活用し、効果的かつ効率的な保健事業の実施を図るための実施計画「データヘルス計画」を策定した上で、保健事業の実施及び評価を行うこととなりました。これを踏まえ、町では、平成 28 年に平成 29 年度までの２ヵ年計画として「第１期国民健康保険保健事業実施計画（データヘルス計画)」を策定しました。

さらに、平成 30 年３月には平成 30 年度から平成 35 年度までの６カ年にわたる「第２期データヘルス計画」を策定し、第１期計画期間の健康診断結果や医療情報を活用することにより、生活習慣病対策をはじめ、自主的な健康増進及び疾病予防の取組みについて支援し、被保険者の個々の特性を踏まえた保健事業をＰＤＣＡサイクルに沿った方法で実施してきました。

２　第２期計画の期間・中間評価及び見直し

第２期計画は、平成 30 年度から令和５年度までの６カ年を計画期間（以下、平成 30 年度から令和２年度までを「前期期間」、令和３年度から令和５年度までを「後期期間」といいます。）とし、令和２年度に中間評価及び見直しを行い、令和５年度に最終評価を行います。

中間評価では、これまでの実績や各種データの分析をもとに、取組状況や目標の達成状況等の評価を行います。

３　第２期計画の目的・目標

第２期計画では、令和５年度に達成するべき目的･目標を次のとおり設定しています。

目的	成果目標（令和５年度）
(1) 特定健診受診率の目標達成	特定健診受診率・・・・・58%
(2) 特定保健指導実施率の目標達成	特定保健指導実施率・・・56%
(3) メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の割合の減少	メタボリックシンドローム該当者及び予備群割合・・・・・・・・・・25%

４　実施体制・関係者連携

保健事業の中心的役割を果たしている健康福祉課健康推進係および町民課国保年金係に所属する保健師、職員が策定・実施に努めています。

個別保健事業については岩手西北医師会と連携して実施し、中間評価については岩手町国民健康保険運営協議会から意見の聴取を行っています。

また、平成 30 年度から岩手県が市町村国保の運営主体となり共同保険者となったことから、データの提供などを通じて連携しています。

各種データは、健診結果やレセプト、KDB などの分析データを活用しています。

５　中間評価の趣旨

本計画では、優先的に解決すべき健康課題を把握し、その課題整理に基づく被保険者の健康保持増進に向けて必要な個別保健事業の実施を行ってきました。中間年度に当たる令和２年度においては、平成 30 年度から令和元年度までに実施した事業の評価と後期期間の目標の見直し等を行います。

第２章　中間評価の目的及び方法

１　中間評価の目的

評価指標の進捗状況や取組状況を評価するとともに、課題の整理を行い、第２期計画の後期間の施策に反映することを目的とします。

２　中間評価の方法

「第３章　保健事業の中間評価」では、第２期計画にある 13 の保健事業について計画策定時に設定した評価指標について、ベースライン（平成 28 年度）と実績値を比較し４段階で評価しました。

Ａ：改善している
Ｂ：変わらない
Ｃ：悪化している
Ｄ：評価困難

また、個別保健事業につきましては、今後の事業の方向性を以下の３段階で評価しました。

ａ：継続
ｂ：縮減
ｃ：廃止・休止

第３章　保健事業の中間評価

各保健事業の実績・評価については以下の通りです。
※ベースライン及び目標値を下回った数値は赤字で示しています。

１　全体目標の評価

Ａ．特定健診受診率の維持

目標		ベースライン (H28)	実績値			評価
評価指標	目標値 (達成時期：R５)		H29	H30	R1	
特定健康診査受診率	58.0%	60.0% (1,733/2,887)	60.0% (1,658/2,762)	60.1% (1,625/2,704)	57.3% (1,513/2,641)	C

【実績・評価】

令和元年度は、ベースラインも目標値も下回ったため、評価をＣ（悪化している）としました。

Ｂ．特定保健指導実施率の向上

目標		ベースライン (H28)	実績値			評価
評価指標	目標値 (達成時期：R５)		H29	H30	R1	
特定保健指導実施率	56.0%	50.5% (138/273)	62.5% (175/280)	48.4% (133/275)	53.5% (108/202)	A

【実績・評価】

年度によって波がありますが、令和元年度はベースラインを上回ったため、評価をＡ（改善している）としました。

Ｃ．メタボリックシンドローム予備群・該当者の減少

目標		ベースライン (H28)	実績値			評価
評価指標	目標値 (達成時期：R５)		H29	H30	R1	
メタボ予備群・該当率 ※厚生労働省様式5-3 より	25.0%	29.8% (518/1,733)	32.2% (534/1,660)	34.5% (562/1,630)	34.5% (529/1,535)	C

【実績・評価】

ベースラインから年々悪化しているため、評価をＣ（悪化している）としました。

2　個別保健事業の評価

①特定健診事業未受診勧奨

目標		ベースライン（H28）	実績値			評価（ベースラインとの比較）	今後の方向性
評価指標	目標値（達成時期：R5）		H29	H30	R1		
勧奨者の受診率（勧奨後受診者数/未受診勧奨者数）	50.0%	42.8%（115/269）	41.8%（133/318）	41.4%（130/314）	61.5%（171/278）	A	a

（1）現状と課題

令和元年度の勧奨後受診者数が大きく伸びています。これは、これまで継続して実施してきた成果が現れてきたと言えます。

しかし、反面、健診期間の最後の方に受診者が偏ると、会場が混んで待ち時間も長くなると、そのことを嫌がり将来未受診者となることも考えられます。受診者の分散化の工夫が必要です。

（2）評価と今後の方向性

令和元年度に数値が大きく向上し、目標値もベースラインも超えたので、評価をA（改善している）としました。

今後も継続して実施していきます。

②特定健診受診者のフォローアップ（特定保健指導未利用者対策）

目標		ベースライン（H28）	実績値			評価（ベースラインとの比較）	今後の方向性
評価指標	目標値（達成時期：R5）		H29	H30	R1		
特定保健指導利用率（利用者数/対象者数）	50.0%	50.5%（138/273）	62.5%（175/280）	48.4%（133/275）	53.5%（108/202）	A	a

（1）現状と課題

平成30年度以外は目標値を達成できています。

（2）評価と今後の方向性

平成30年度以外は目標値もベースラインも超えたので、評価をA（改善している）としました。今後も継続して実施していきます。

③特定健診受診者のフォローアップ（受診勧奨判定値を超えている者への対策）

目標		ベースライン（H28）	実績値			評価（ベースラインとの比較）	今後の方向性
評価指標	目標値（達成時期：R5）		H29	H30	R1		
精密検査受診率（受診者数/対象者数）	80.0%	66.6%（572/859）	72.7%（618/850）	75.6%（579/766）	74.0%（490/662）	A	a

（1）現状と課題

精密検査の受診率が低いのが当町の課題です。手紙、電話、訪問による勧奨を行っていますが、まだまだ受診率が低いので複数回にわたった勧奨を実施していくことが必要です。

（2）評価と今後の方向性

毎年ベースライン超えているので、評価をA（改善している）としました。

今後も継続して実施していきます。

④特定健診受診者のフォローアップ（特定健診継続受診対策）

目標		ベースライン（H28）	実績値			評価（ベースラインとの比較）	今後の方向性
評価指標	目標値（達成時期：R5）		H29	H30	R1		
特定健診継続受診率	80.0%	85.0%（1,247/1,467）	84.4%（1,288/1,525）	86.8%（1,289/1,485）	85.8%（1,271/1,481）	A	a

（1）現状と課題

継続受診率はすでに目標値を上回っています。その要因として、健診が無料であることや。健診の受診券配布時の保健推進員による積極的な受診勧奨が挙げられます。

（2）評価と今後の方向性

平成30年度と令和元年度は、ベースラインも目標値も超えているので、評価をA（改善している）としました。平成29年度もベースラインを下回っていますが、目標値は上回っています。

今後も継続して実施していきます。

⑤生活習慣病の１次予防に重点を置いた取組（早期介入保健指導事業）

目標		ベースライン（H28）	実績値			評価（ベースラインとの比較）	今後の方向性
評価指標	目標値（達成時期：R5）		H29	H30	R1		
生活習慣（食事・運動・喫煙）の改善率（改善者数/対象者数）	30.0%	－	15%	22%	20%	A	a

（1）現状と課題

若年者（35～39 歳）のうちから健診に対する意識を高く持つことで、特定健診対象年齢に達したときに健診受診に繋がり、また、生活習慣改善意識も高まるので、引き続き積極的に指導をしていきます。

（2）評価と今後の方向性

平成 29 年度から開始した事業です。目標値には達していませんが平成 29 年度より数値が向上しているので、評価を A（改善している）としました。

今後も継続して実施していきます。

⑥特定健診 40 歳前勧奨

目標		ベースライン（H28）	実績値			評価（ベースラインとの比較）	今後の方向性
評価指標	目標値（達成時期：R5）		H29	H30	R1		
若年者（35～39 歳）健診受診率	60.0%	－	35.7%（86/241）	59.5%（72/121）	46.7%（71/152）	A	a
若年者精密検査受診率	60.0%	－	38.5%（10/26）	23.1%（3/13）	35.3%（6/17）	C	a
特定健診 40 歳代受診率	55.0%	40.4%（131/324）	47.1%（148/314）	40.8%（127/311）	41.0%（119/290）	A	a

（1）現状と課題

若年者の健診受診後の精密検査受診率が低く、特定健診と同じ傾向にあります。健診は受けることだけでなく、その後の精密検査や生活習慣改善が大切なことを健診受診時に説明しています。

（2）評価と今後の方向性

若年者の健診受診率と 40 代の特定健診受診率は、ベースラインを上回っているので評価をA（改善している）としました。

若年者精密検査受診率は、事業開始の平成 29 年度より数値が下がっているので、評価をC（悪化している）としました。

今後も継続して実施していきます。

⑦生活習慣病重症化予防における保健指導

目標		ベースライン（H28）	実績値			評価（ベースラインとの比較）	今後の方向性
評価指標	目標値（達成時期：R5）		H29	H30	R1		
健診受診者の推定塩分摂取量平均値	10.0 g	10.5 g	10.5 g	10.0 g	10.1 g	A	a

（1）現状と課題

推定塩分摂取測定を行うことで住民の改善意識も高まってきています。

数値は微減傾向にありますが目標値は達成しています。

（2）評価と今後の方向性

ベースラインを下回っていますが目標値は達成しているので、評価を A（改善している）としました。

今後も継続して実施していきます。

⑧糖尿病性腎症重症化予防事業

目標		ベースライン（H28）	実績値			評価（ベースラインとの比較）	今後の方向性
評価指標	目標値（達成時期：R5）		H29	H30	R1		
糖尿病性腎症対象者の医療機関受診率（医療機関受診者/要治療者）	60.0%	－	66.7 (4/6)	65.0 (11/17)	47.1% (8/17)	C	a

（1）現状と課題

特定健診終了後、KDB やマルチマーカーを用いて抽出した対象者に手紙による受診勧奨を行っています。その後、病院の受診状況を確認し、未受診者に対して電話や訪問により受診勧奨をすることで、医療につながるよう対策を取っています。

（2）評価と今後の方向性

平成 29 年度と平成 30 年度は目標値を上回っていましたが、令和元年度は目標値を下回ったので、評価をＣ（悪化している）としました。

しかし、割合は減少しましたが、医療機関受診者数は平成 29 年度より倍増しているので、今後も継続して実施していきます。

⑨健康教育

目標		ベースライン（H28）	実績値			評価（ベースラインとの比較）	今後の方向性
評価指標	目標値（達成時期：R5）		H29	H30	R1		
参加者	300 人	252 人	236 人	255 人	329 人	A	a

（1）現状と課題

参加者数は増加していますが、参加者の高齢化が進んでいます。若いうちからの参加が増えるよう、内容や開催方法の検討が必要です。

新型コロナウイルス感染症によるイベント等の縮小の影響を受けるので、コロナ禍での開催方法の検討が必要です。

（2）評価と今後の方向性

数値は増加傾向にあり目標値も達成しているので、評価をＡ（改善している）としました。

今後もコロナ禍での効果的な開催方法を検討しながら、継続して実施していきます。

⑩健康相談

目標		ベースライン（H28）	実績値			評価（ベースラインとの比較）	今後の方向性
評価指標	目標値（達成時期：R5）		H29	H30	R1		
相談延べ人数	500 人	469 人	478 人	440 人	448 人	C	a

（1）現状と課題

多くの機会を作って、より相談しやすい環境づくりに取り組んでいきたいが、新型コロナウイルス感染症によるイベント等の縮小の影響を受けるので、コロナ禍での開催方法の検討が必要です。

（2）評価と今後の方向性

ベースラインを下回っているので、評価をＣ（悪化している）としました。

今後もコロナ禍での効果的な開催方法を検討しながら、継続して実施していきます。

⑪重複・頻回受診者

※重複受診者：１つの傷病で同じ月内に２箇所以上医療機関を受診する者（診療所からの紹介や検査のための重複受診は除く）

頻回受診者：１つの傷病で同じ月内に 20 回以上の通院が３ヵ月以上続いた者

目標		ベースライン（H28）	実績値			評価（ベースラインとの比較）	今後の方向性
評価指標	目標値（達成時期：R5）		H29	H30	R1		
訪問者数	５人	9	7	2	3	C	a

（1）現状と課題

訪問を断られるケースが多く訪問者数がかなり減少しています。

（2）評価と今後の方向性

減少傾向が続き、ベースラインも目標値も下回っていますので、評価をＣ（悪化している）としました。

現在、年１回しか行っていない対象者の把握を複数回実施することで、訪問の機会を増やし、訪問者数の増加を図ります。

⑫歯科保健事業

目標		ベースライン（H28）	実績値			評価（ベースラインとの比較）	今後の方向性
評価指標	目標値（達成時期：R5）		H29	H30	R1		
う歯有病者数（幼児）	０人	10	3	6	4	A	a
一人平均現在歯数	妊婦 28 本	29	28	27	28		
	20 歳 28 本	28	29	29	28		
	30 歳 28 本	29	28	30	29		
	40 歳 28 本	28	28	28	28		
	50 歳 28 本	26	25	26	27		
	60 歳 25 本	24	24	24	24		
	70 歳 20 本	17	19	19	19		

（1）現状と課題

ベースラインまたは目標値を下回っている項目が２つしかなく、事業効果が順調に表れています。

（2）評価と今後の方向性

おおかたの数値がベースラインまたは目標値を上回っているので、評価を Ａ（改善している）としました。

今後も継続して実施していきます。

⑬健康づくりを推進する地域活動等

目標		ベースライン（H28）	実績値			評価（ベースラインとの比較）	今後の方向性
評価指標	目標値（達成時期：R5）		H29	H30	R1		
特定健診 40 歳代受診率	55.0%	40.4%（131/324）	47.1%（148/314）	40.8%（127/311）	41.0%（119/290）	A	a
健康教室・栄養教室参加者数	300 人	252 人	236 人	255 人	329 人	A	a

（1）現状と課題

特定健診 40 歳代受診率は、改善されてはいるが目標値よりは 15%ほど低くなっています。40、50 歳代の受診率が低いのは町の健康課題にも挙げられており、全体の受診率底上げのためにもこの年代への対策は不可欠となっています。

（2）評価と今後の方向性

ベースライン上回っているので、評価を A（改善している）としました。

今後も継続して実施していきます。特に、特定健診 40 代受診率は目標達成に向けた効果的な方策を検討します。

第４章　総合評価と今後の方向性

１　データヘルス計画の目的・目標の達成要因

データヘルス計画の３つの全体目標（令和５年次）は、どれもまだ達成されていません。

しかし、個別保健事業については、ベースラインが平成 28 年度より改善したのは、13 事業中９事業あり、すでに目標を達成しているのは５事業があります。

全体の７割の事業で改善が見られているということは、概ね順調に事業を実施できていると評価します。

２　データヘルス計画の目標・目的の未達要因

個別保健事業で、ベースライン（H28）から悪化しているのは４事業です。

特に、特定健診受診率が減少傾向にあります。特定健診受診率を引き上げる方策として「若年層からの生活習慣病予防の意識づけ」と「受診率の低い 40、50 歳代の受診率を引き上げること」が挙げられるので、今後①特定健診事業未受診勧奨、⑥特定健診 40 歳前勧奨、⑬健康づくりを推進する地域活動等の個別保健事業を重視して取り組んでいく必要があります。

３　今後の方向性

第２期データヘルス計画の後期は、３つの目標のうち、現時点で未達成となっている「Ａ．特定健診受診率」「Ｃ．メタボ予備群・該当率」の目標達成に向けて重点的に取り組んでいきます。

この中間評価において改善が見られなかった４事業については、来年度以降の取組みについて改善策を検討し、より効果的な方法で取り組んでいく必要があります。

また、今後、新型コロナウイルス感染症による事業縮小なども考えられるため、コロナ禍においても実施可能な方法を検討する必要があります。